

ひことひら

第23号

平成28年8月

発行:香川県琴平町議会

議会だより



6月議会

6月定例会 2

一般質問 4

平成28年6月定例会

可決

28年度
補正予算
審議

一般会計補正予算案など 8議案を原案のとおり可決・同意

平成28年6月定例会は、6月9日から22日までの14日間の会期で開催しました。
町長から提出された一般会計補正予算案など4議案を可決、専決処分案3件を承認、人事案1件を同意しました。

また、町民から提出された「琴平町立図書館設置に関する陳情書」を採択しました。

一般質問では7人の議員が本町の行政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針等について町長や教育長にいろいろな角度・視点から質問しました。

平成28年度6月補正予算

可決

会計名	補正額	補正後総額	主な補正内容
一般会計	2,836万円	43億9,976万1千円	観光施設事業費の増額 2,100万円 一般コミュニティ助成事業費の増額 500万円

琴平町立図書館設置に関する陳情書 採択

発起人 琴平町PTA連絡協議会会長 森藤 泰生
琴平町文化協会会長 門脇 俊文
事務局 415(よいこ)のわ 代表 石井 泰弘

陳情概要

町づくり、人づくりの上から、地域コミュニティの核としての公立図書館の重要性が増しています。琴平町は、香川県内では残り少ない図書館未設置自治体となっています。学校整備計画も進む中、統合後の既存の校舎などの公共施設を有効活用し、琴平町に出来るだけ早く琴平町立図書館が設置されるよう以下の3事項の早期実現を陳情致します。

- 1 本年度に於いて検討が行われる琴平町立学校の整備基本計画に於いて、統合後の既存校舎等の公共施設の整備計画の中に、琴平町立図書館設置を位置づけ、琴平町立図書館設置計画を進めて下さい。
- 2 図書館設置計画を進めるに当たっては、住民と共に、基本構想・基本計画を作成するための検討会を設置して下さい。
- 3 既存校舎が空いた時から出来るだけ早い時点で図書館を開館して下さい。

※ 陳情書採択とは・・・議会が陳情内容に賛成であるという意思表示をするものです。

議案の審議結果 平成28年6月定例会

議案名等	議員名		議席番号										議決月日	
	賛成	反対	採決結果	1 片岡英樹	2 別所保志	3 吉田親司	4 豊嶋浩三	5 安川 稔	6 渡辺信枝	7 今田勝幸	8 山下康二	9 真鍋壽男		10 山神 猛
議案第1号 平成28年度琴平町一般会計補正予算（第1号）	8	1	可	—	○	○	○	○	○	×	○	○	○	6/22
議案第2号 専決処分の承認について（琴平町税条例等の一部を改正する条例）	9	0	承	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6/9
議案第3号 専決処分の承認について（琴平町国民健康保険税条例の一部を改正する条例）	8	1	承	—	○	○	○	○	○	×	○	○	○	〃
議案第4号 専決処分の承認について（行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例及び琴平町固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例）	9	0	承	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第5号 琴平町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供等に関する条例の一部を改正する条例	9	0	可	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第6号 琴平町立学校条例の一部を改正する条例	9	0	可	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
議案第7号 平成28年度琴平町一般会計補正予算（第2号）	9	0	可	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6/22
議案第8号 琴平町教育委員会委員の任命について	9	0	同	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
発議第1号 議員派遣の件	9	0	可	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6/9
陳情第1号 琴平町立図書館設置に関する陳情書	9	0	採	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6/22

※ 可…可決 否…否決 同…同意 承…承認 継…継続 認…認定 不認…不認定 採…採択 不採…不採択
 ※ ○…賛成 ×…反対 欠…欠席 退…採決退席 —…議長（議長は可否同数の場合のみ表決権があります。）

琴平町教育委員会の委員の任命に同意

もり い みき お
森 井 幹 夫 氏（琴平町苗田） 新任 52歳

任期：平成28年7月3日～平成32年7月2日

教育行政を処理するため地方公共団体に置く委員です。
 4人の委員をもって組織され、任期は4年です。

琴平町選挙管理委員会の委員及び同補充員の選挙

任期満了に伴う選挙管理委員及び同補充員の選挙が行われ、指名推選により次の方々が当選されました。なお、任期は平成28年7月6日から4年間です。

選挙管理委員

つみ 堤 徹 郎 氏 （琴平地区）	すず き 鈴 木 浩 氏 （榎井地区）	ひろし 浩 氏 （榎井地区）
とよ まさ ひろ 豊 嶋 政 宏 氏 （五條地区）	やま もと 山 本 勉 氏 （象郷地区）	つとむ 勉 氏 （象郷地区）

補充員（数字は補充順位）

① たか た あつ お 高 田 厚 夫 氏 （榎井地区）	② みや たけ てる あき 宮 武 輝 章 氏 （五條地区）
③ かね せき はじめ 金 關 首 氏 （象郷地区）	④ い とう 伊 藤 茂 氏 （琴平地区）



A

Q

教育長 クラブ活動費に対する補助制度は現在ない。今後、近隣の町の状況等を確認するとともに、中学校の先生やPTAの方々からの意見もうかがいながら、財政当局とも協議する。補助制度が必要となれば、要綱等の整備も検討していきたい。

渡辺 中学校のクラブ活動費は保護者にとって非常に負担となっている。何らかの補助制度の創設を求める。

町長 小学校統合と中学校の整備が本町の喫緊の課題であると位置づけ、関係各課が連携して取り組み横断的な4つのプロジェクトチームを編成する。本プロジェクトチームを定期的、また必要に応じて招集し、取組み状況の報告や連携事項の確認・協議を行い、統合の骨格となる基本構想をこの秋をめどにまとめたい。

A

Q

渡辺 新教育長の教育行政についての所信表明及び今後の3小学校をはじめとした教育施設の統廃合についての考えを問う。



渡辺 信枝 議員

◎新教育長の所信表明及び
学校統廃合のお考えは
◎クラブ活動費に対する
補助制度の創設を



山神 猛 議員

◎外郭団体職員
の
給与を問う

Q

山神 財政が厳しい町に対して補助金の増額を求めている外郭団体職員の給与が高い。世間一般の常識から考えても、厳しい経営状況から考えても再雇用職員の当初の給与が、年収約650万円は異常である。この給与を半年間支出していたが、議会からの財政改革をとの声に応じて130万円（2割）の減額を行ったとのことであるが、本町より財政が豊かな近隣の外郭団体職員の給与と比べてもまだ高額である。

また、中途採用の職員に対しては、30年勤続の町職員に相当する5級（課長補佐）の給与を支給している。なぜ、新卒者ではなく、定年までわずか7年の職員を正規職員に採用したのか。

A

町長 当時会長であった私が、その人の職務経験、能力等を考慮して決定した。



別所 保志 議員

◎琴平町の美観管理は
◎小学校統合問題の
進行状況は

Q

別所 町内の清掃活動に対して町として後押しのような事はしているか。また、公衆トイレの落書きや金倉川沿いの街灯のペンキの剥がれが目立つ。観光立町として対策はしているのか。

A

町長 ボランティアの皆様方の清掃活動には大変感謝している。清掃活動に対しては、出来る限りの支援を今後とも続けていきたい。落書きに関しては、人感センサー式照明や防犯カメラの設置を考えている。街灯のペンキの塗り直しと修繕は防犯の面でも必要である。今後の町並み整備もふまえて考えていく。

Q

別所 自転車の違法駐輪をよく見かける。例えば、JR琴平駅周辺の不法駐輪は大変通行の妨げになっている。観光の町として恥ずかしい事だと思うが、対策は考えているのか。

A

町長 最終的には警察や関係行政機関と連携のもと法的手段を行使することとなる。JR側と協議し、駐輪場の整備についても検討する必要がある。現状を把握し今後の対策を協議していきたい。

Q

別所 小学校統合問題については、平成32年までに形にすると言う事だが現在の進行状況はどのようになっているのか。

A

町長 関係各課で構成するプロジェクトチームを立ち上げたところであり、万全の構えで基本計画をまとめていく。



吉田 親司 議員

- ◎ JR 駅前の放置自転車対策は
- ◎ 旧敷島館跡地に建設
予定のホテルの詳細は
- ◎ 早急なる旧町営バス
乗降場の開放を求める

Q 吉田 本年度行われるJR琴平駅舎の耐震改修工事により駅前の景観の大幅な向上が見込まれる。こうした中で、駅トイレ前に放置された自転車については、今後どういった対策をするつもりか。放置自転車は景観上非常に見苦しい。

A 町長 監視カメラ、看板設置等も含めて検討する。また、JR側とも協議しながら現在の民間駐輪場に停めていただくか、何らかの公的駐輪場を整備するか等、琴平町の表玄関にふさわしい景観となるよう早急に対策を進めていきたい。

Q 吉田 平成28年9月着工予定とお聞きしている旧敷島館跡地のホテルの現時点での内容、経緯を問う。

A 町長 鉄筋7階建て、客室数91室、収容人員250名規模、パブリックスペースとして足湯を設け、平成30年1月グランドオープンする予定。登録有形文化財である旧敷島館の正面意匠はそのまま踏襲する。温泉については、町営の智光院温泉の温泉水を配湯できる見込みである。

外湯も含めて、こんびら温泉郷の目玉となる施設にしてほしいと事業者に強く要望している。

Q 吉田 旧町営バス乗降場跡地を速やかに整備し、「センダンの木公園」として町民への開放を求める。

A 町長 公園スペースとしての活用は問題ないと思うので、今後具体的な方針を固めていく。



豊嶋 浩三 議員

- ◎ プラットフォーム
事業の拠点としての
公会堂の利用状況は

Q 豊嶋 町長が考えるプラットフォーム事業とは何か。

A 町長 住民主体の町づくり活動を自主自立の運営を基本に、行政の制約なしで住民が行う事業であると考える。

Q 豊嶋 町民だれにでも開かれた公会堂にならないのか。

A 町長 公会堂はプラットフォーム事業の拠点だが、常時開放には人的にも経費的にも余裕がないので、活動されている住民同士で勘案していただきたい。

Q 豊嶋 昨年の5月から今年の3月までに公会堂プラットフォームにおいて、2千人以上の人的交流があった。この事実をどう理解するのか。

A 町長 公会堂の活用価値は十分認識しているが、財源等について内部協議を行っていく。

Q 豊嶋 公会堂の常時開放はできないのか。

A 町長 現在、予算措置はしていない。今後常時開放の方法等について協議を重ねていく。

A

町長 事業内容が変更になったことに関しては、大変申し訳なく思っている。議員がおっしゃるように議案審議の中でも大変重要度の高い当初予算に関する事なので、今後、こうしたことがないよう努めていく。

Q

眞鍋 平成28年3月の本会議において、町長から平成28年度も引き続き、消費者の購買意欲の喚起、町内の消費拡大及び商工業の振興・活性化を目的とする20%のプレミアム付商品券の発行事業を行うとの説明があり、事業費は500万円、財源は地方債（借金）ということであった。本会議での採決の結果、賛成多数で本予算を可決した。しかしながら、実際発行された商品券は、10%のプレミアム率であった。町長は、いとも簡単に議会の議決をひっくり返してしまったのである。日本中を探してもこうした例は全くなく、前代未聞のことである。議会で議決した予算は誰が何と言おうが、議会で決めた以上は拘束されるのである。もはや本町においては、議会はあつてなしの如し。小野町長は議会そのものを否定した。発行方法をなぜ変更したのか。



眞鍋 籌男 議員

◎プレミアム付き商品券の発行方法をなぜ変更したのか

A

町長 3千万円の繰越金をもとに引下げに踏み切るにはまだまだ弱い。

Q

今田 平成27年度国民健康保険特別会計決算での繰越額3千万円の大きな要因は、国の国保支援金によるものだ。これを財源に国民健康保険税の引下げを求める。

A

教育長 本町の高校奨学資金支給額は月額1万円です。返還を要しない給付型。大学奨学資金は月額3万円です。卒業後の奨学金返済の現状はゆゆしきことだと考える。町単の奨学金事業への要望、意見は重く受け止める。

町長 奨学金負債の現状は以前に比べ重荷になっていると認識している。これは国全体で考える問題だ。卒業後の居住地や税の公平性などの観点での協議も必要だ。現時点での改善は難しい。

Q

今田 国政は事実上参院選に。安保法制・戦争法に反対する市民運動の応援を受け、32の1人区全部で「野党+市民」と「安倍政権と補完勢力」との戦いとなっている。さて、大学生の2人に1人は奨学金を借り、卒業時には平均300万円、大学院だと1千万円もの借金を抱えて卒業する。このような実態を踏まえ、町単の高校奨学資金支給費の月額1万円の増額と大学奨学資金貸与を給付型に改善するよう国・県へ強力求め、町も早期に実施を求める。



今田 勝幸 議員

◎町の奨学金制度(償還型)を若者応援の給付型に改善を
◎国民健康保険税の引き下げを

琴平町議会行政視察報告

他自治体行政視察として新潟県弥彦村と新潟県湯沢町に行きました。

H28.7.25~27



新潟県弥彦村（やひこむら）

＜概況＞

新潟県のほぼ中央部の日本海側にあり、新潟市、長岡市、燕市に隣接し、上越新幹線「燕三条駅」から車で30分。人口は8500人余。金刀比羅宮と彌彦社のつながりから、昭和51年に本町と弥彦村間で親善町村提携を結び、毎年交流を続けている。

＜視察報告＞

人口減少対策などについて意見交換会を行いました。昨年、36年ぶりに村長選挙が行われ、新しく就任された小林村長をはじめ幹部職員から、弥彦村の主な取り組みについて説明をいただきました。

◎人口対策

- ・近隣市町村より高い保育料の減額見直し。
- ・新潟県内で最下位の婚姻率を解消するために、婚活支援事業を推進。
- ・移住促進事業として、新築や中古住宅の建築・購入に20～40万円補助。

◎農業・観光対策

- ・弥彦村へのふるさと納税額が、平成26年度の20万円から平成27年度1億円を突破。要因はインターネット決済制度や商品ラインナップの見直しなど。これを契機に、地元特産品の弥彦産コシヒカリのブランド化を推進し、「伊彌彦米」（いやひこまい）としてオリジナルの米



弥彦村 武石議長

袋やPR活動に取り組む。

- ・彌彦神社を中心に行われる「燈籠祭り」「弥彦菊まつり」の推進。
- ・彌彦神社内の「新相撲場開き」で伊勢ヶ濱部屋・日馬富士による土俵入りを実現。
- ・伊勢ヶ濱部屋夏合宿の誘致。伊勢ヶ濱親方の観光大使就任。日馬富士を通してモンゴル国との友好都市協定締結を目指すなど大相撲を新しい観光の目玉に。

- ・平成27年に老朽化・廃墟化した「旧やひこ観光ホテル」を村が取得し、国の交付金2億円を活用し都市再生整備事業に取り組み。駅前広場の観光イメージアップ、防犯対策を目指す。



弥彦村との意見交換会



弥彦村 小林村長

小林新村長をはじめ幹部職員から、これまでの行政路線を改革しようとする姿勢を感じました。いろんな意味で村の活性化を推し進めてあります。今後同規模の自治体として、交流や研鑽・連携を進めていくべきと村長とも確認させていただきました。

新潟県湯沢町（ゆざまわまち）

＜概況＞

新潟県の南端に位置し、面積は357km²で本町の約44倍。越後湯沢スキー場や越後湯沢温泉としても有名で、新幹線駅や高速道路ICもあり、観光と産業の町。昭和50年の1万8000人の人口が、現在は8200人と緩やかに減少している。

＜視察報告＞

保小中一貫教育校「湯沢学園」の建設と運営について、湯沢町清水教育長、南雲議会議員をはじめ担当者から説明をいただきました。

- ◎湯沢学園：構造…鉄筋コンクリート造、校舎棟4階建 敷地面積…5万2千m²。本年4月に、全国で初めてとなる施設一体型の保小中の一貫教育施設「湯沢学園」が完全スタートした。就学前教育は湯沢認定こども園。小中学校教育は、前期（小



保・小・中一貫校の湯沢学園



現場で説明を聞く

◎建設予算については、当初38億円を見込んでいたが、東日本震災などの影響で最終的には49億円余となった。その財源内訳は、国庫支出金15億円余、町借金（町の実質負担は約3割の借金）18億円余、町の一般財源15億円余。

1から小4）、中期（小5から中1）、後期（中2と中3）とし、学習指導要領を遵守しながら小中9年間を学び環境になつていく。小学校と中学校の校長先生がそれぞれあり、職員室は小中一体の部屋とし、いつでも小中教師間で相談連絡できるよつになつていく。

◎校舎建設については、学校用地は廃校した旧湯沢高校の跡地を建物解体費込み2億円取得。学校建設検討会を平成21年に設置。平成22年にプロジェクト方式で設計事業者決定。平成23年に検討会結果説明会、実施計画案の議会説明。平成24年に建設工事着手。平成25年に5つの小学校と1つの中学校を閉校し、平成26年にまず、小中一貫校を開校。平成28年に認定こども園を開園し、湯沢学園（保・小・中）が完全スタートした。

◎学校校舎は、認定こども園棟、体育館棟、校舎棟を廊下で連結している。特徴は、目を引くデザインの校舎。校舎内に集会や運動などが出来る多目的の広場、囲炉裏の間などを整備。ややコンパクトな教室（30〜35人）とオープンスペースな広い廊下。教室にはプロジェクト型電子黒板を設置。すべての園児・児童・生徒が使える可動床式の屋内型温水プールや学校給食センターを併設。また、教育委員会事務局も学校内にあり、教育現場と行政が密接に機能している。



校舎の広い廊下

◎建設予算については、当初38億円を見込んでいたが、東日本震災などの影響で最終的には49億円余となった。その財源内訳は、国庫支出金15億円余、町借金（町の実質負担は約3割の借金）18億円余、町の一般財源15億円余。

また、5つの小学校を統合したため、最遠のお子さんは学校から20kmも離れており、通学バスの年間経費は1850万円となっています。民間委託の専用スクールバスをはじめ、路線バスやスクールタクシーなども活用していますが、雪国なので冬場の通学手段確保も課題となっています。この点は、面積8kmの本町とは大きく異なる点と言えます。小中一貫教育を開始して2年が経ちますが、先生方はこの体制に慣れるまで大変だったそうですが、教育現場でのデメリットは特にないとのことです。

旧校舎などの跡地利用については、5小学校のうち3小学校は、NPO法人や民間会社に貸し活用されており、旧小学校の体育館は災害時の避難所として使います。湯沢町にとっては、保小中一貫教育が移住促進政策の中心施策となつていくといえます。

学校建設の町の実質負担は約21億円と見込まれます。湯沢町は、長年にわたり交付税不交付団体であり、財政的に豊かな町と言えます。

しかし、当初から建設予算が増大したため、議会での予算否決や設計内容の大幅な変更など、かなり揉めに揉めながら推移してきたことも聞きました。

また、5つの小学校を統合したため、最遠のお子さんは学校から20kmも離れており、通学バスの年間経費は1850万円となっています。民間委託の専用スクールバスをはじめ、路線バスやスクールタクシーなども活用していますが、雪国なので冬場の通学手段確保も課題となっています。この点は、面積8kmの本町とは大きく異なる点と言えます。小中一貫教育を開始して2年が経ちますが、先生方はこの体制に慣れるまで大変だったそうですが、教育現場でのデメリットは特にないとのことです。



プロジェクト型電子黒板

湯沢町では、新しい学校を造ることを決めたのちに、副町長を委員長、教育長を副委員長とした「文教施設整備委員会」を設立し、3分科会（保・育・教育・建設）を10か月で50回以上開催するなど、どのような学校を造るべきかを集中的に議論検討したそうです。そうした結果が新学校建設計画に強く反映されたということです。

本町では、今年3月に出た「琴平町立小学校の適正規模・適正配置等検討委員会」の答申に沿って、新しい土地に新しい校舎を建設し、3小学校を一つに統合する方針となっています。現在、庁内プロジェクトチームを設置し、学校統合についての研究検討を進めています。町長は、議会の一般質問等においても、「早くても平成32年春の開校を目指す。」と打ち出しております。

議会としては、新しい学校の姿がどうあるべきかを町の一大プロジェクトとしてとらえ、さらなる調査・研究を継続してまいります。

今回の湯沢学園の視察研修を通して、これからの新しい学校のモデルケースの一つとして大いに参考にになりました。



小・中学生が利用する屋内プール



校舎内の多目的広場



お知らせ

議会を見に来ませんか？

6月定例会は22名の方が会議を傍聴されました。



本町議会では、定例会を3月、6月、9月、12月の年4回（臨時会は随時）開催しています。

会議の当日、傍聴人受付簿にご記入いただき、役場3階傍聴席入口よりご入場ください。

**9月定例会は
9月9日(金)に開会します。**

詳しくは議会事務局（☎75-6713）までお問い合わせください。

平成28年9月定例会日程 (予定)

月	日	曜日	会 議
9	9	金	本会議（提案理由説明等） 9：30～
	10	土	
	11	日	
	12	月	本会議（一般質問） 9：30～
	13	火	本会議（一般質問） 9：30～
	14	水	総務産業経済常任委員会（議案審査） 9：30～
	15	木	教育厚生常任委員会（議案審査） 9：30～
	16	金	予備日
	17	土	
	18	日	
	19	月	（敬老の日）
	20	火	本会議（委員長報告、採決等） 9：30～

会議録もご覧ください

議会だよりでは、紙面の都合により内容を要約してお伝えしています。質疑・答弁の詳細は、会議録に詳しく掲載されていますので、ぜひご覧ください。会議録は町ホームページ内、議会欄、会議録検索システムでご覧になれます。

琴平町議会

検索



表紙の写真

北保育所で夕涼み会が開催され、先生と一緒に歌をうたったり、手遊びをしました。保護者の方によるマジックショーもあり、会場は大いに盛り上がりました。

編集後記

早いもので本町議会も昨年夏の改選以来1年が過ぎました。3人の新人を加え議員10人一致団結をし、明るく豊かなまちづくりに邁進いたしております。その一端を議会だよりにてご報告いたしておりますが、まだまだご理解いただけない点多々あろうかと思えます。議会活動をできるだけ分かりやすく広報し、開かれた議会にしたいと編集委員全員で頑張っておりますので、忌憚のないご意見をお聞かせください。よろしくお願い申し上げます。

(吉田)



発行責任者

議長 片岡 英樹

議会広報編集委員会

委員長 山下 康二

副委員長 山神 猛

副委員長 安川 稔

副委員長 豊嶋 浩三

別所 吉田 親司

別所 保志